

すべてのロフトのクラブを含む特性時間の測定

すべてのロフトのすべてのクラブ(パターを除く)のスプリング効果を規定どおりに測定するという私たちの提案について、2005年3月24日付で皆様のご意見を募集しました。その手紙に加えてお知らせいたします。この提案は高いスプリング効果を有するロフトの大きいクラブをデザインする傾向が顕著に増加していることが端緒となっております。この手紙の目的は皆様にこの件についてのR&Aの最新の立場をお知らせすることです。

3月の手紙の結果として、クラブ製造業者から送られたすべてのご意見は慎重に考慮され、さらなる調査活動が行われてきました。現在、私たちはすべてのロフトのすべてのクラブ(パターを除く)に対し、同じ特性時間のテスト方法を用いるという当初の提案は完全に適切であるというわけではないと考えています。フェアウエイウッドやハイブリットクラブについては、現行制限値の適用や改造したペンデュラムでのテスト方法を適用することは適切であることに変わりありませんが、アイアンクラブに対して適用することは過度に厳しいものとなるでしょう。

全米ゴルフ協会(USGA)と協力して、私たちはアイアンクラブのスプリング効果を改造したペンデュラム(測定時のクラブのロフトを低くする)を用いて測定する修正方法を開発しました。しかしながら、私たちはこの修正方法についてさらにテストを行っていきたいと希望しており、それが完了するまで、R&A エキップメント・スタンダードは以下の暫定的な方法を採用することに決定しました。

1. 2006年2月1日より、アイアン以外のすべてのクラブ(パターを除く)は適切なペンデュラムテスト機器(下記の表を参照)で測定され、現行の基準値 $239 \mu\text{s} + \text{許容誤差 } 18 \mu\text{s}$ が適用となります。このクラブのカテゴリーは「伝統的」なアイアンクラブとはみなされずすべてのクラブをカバーし、ドライビングクラブ、フェアウエイウッド、そしてハイブリットクラブを含みます。
2. 2006年2月1日より、アイアンクラブは改造したペンデュラムテスト機器を用いて選別され、必要であれば、キャノンテストを用いて適切な速度(133 ft/s)でもテストされます。基準プレートとの差が0.008を超えると測定されたアイアンクラブは不適合となります(詳細は別紙「試験プロトコル」を参照のこと)。暫定期間中は単にペンデュラムテストの結果に基づいてアイアンクラブが不適合と裁定されることはありません。

誤解を避けるために、2006年2月1日よりのすべてのクラブ(パターを除く)のスプリング効果の規定に関する状況の概要は以下の通りです。

クラブのタイプ	テスト方法	制限値	導入日
ドライビングクラブ	ペンデュラム	$239 \mu\text{s} + \text{許容誤差 } 18 \mu\text{s}$	2008年1月1日 [†]
フェアウエイウッド、ハイブリットクラブ、その他「アイアン」ではないもの	改造したペンデュラム	$239 \mu\text{s} + \text{許容誤差 } 18 \mu\text{s}$	2006年2月1日
伝統的なアイアン	改造したペンデュラム(選別のため);キャノンテスト(必要であれば)	基準プレートより0.008高い数値	2006年2月1日

[†]この規則はすでにドライビングクラブの競技の条件でプロやエリートアマチュアレベルで使用されています。

上記に関してご質問やご懸念がある場合には、どうぞ私にお知らせ下さい。テストプロトコルに関する技術的なご質問は Dr Steve Otto (steveotto@randa.org)までお寄せ下さい。

David Rickman, Director of Rules and Equipment Standards